

リモートでは
困難な教育実践

社会教育としてのいじめ対応

わたしが高校教師であった昔、今考えると間違っていた指導方針に基づいて生徒に強制していた事、たとえば服装頭髪検査などは、社会の認識が変わるに連れてなくなって来ました。

しかし、その時代に体験した学校での「正解」を、今でも正解と信じて疑わない人が、世の中にはたくさん居るのです。

このSSWだよりはまさに、そのような「思い込み」に、注意をうながす目的で配信しています。

☆

たとえば、「誰とでも仲良くしよう!」「たくさん友だちを作りなさい」という指導はどうでしょう。

今のわたしたちは「発達障がい」について知り、この障がいを持つ子の多くは、友だちと上手に話す事、遊ぶ事が難しいと分かりました。

しかし昔は、そんな子も等しく「みんな」の中の一人として、**その苦手を克服して**「みんな」と同じ事を求められた時代でした。

当時の「登校拒否」は不登校と呼ばれ、「問題児」にも発達障がいなどに配慮した手立てがなされています。しかし、いまだに「学校サボリ」「問題児」と言う人がいるのです。

★

戦争といじめの構造は同じだ、と書きました。

性格も、遺伝情報として存在する事が分かっており、おそらく「いじめ」も、遺伝子に書き込まれています。だから「いじめ」は、何もしないできると起きるものだと思うのです。

しかし「いじめ」は、指導によって起こさせない事が出来ます。それでも起きた時のため、どうすれば良いかを教える時代になっています。

だからこそわたしたちは、いじめる子の根底には必ず、自分の力では変えられない障がいや疾患

を含めた、さまざまな課題が潜んでいて、一種の「ストレス反応」としていじめているケースがほとんどである事を知っておく必要があります。

☆☆

家庭で子どもがいじめられると、児童虐待です。しかし学校での「いじめ」をわたしは、成長過程にある子ども同士のトラブルと見ています。

(反社会的、悪質ないじめには**いじめ防止対策推進法**や**傷害罪**によって罰せられる事もあります)

しかし困った事に、**見つかって叱られるという、さらに大きなストレス**を避けていじめるので、おとなが気付かない事があるのです。

その結果、多くの犯罪と同様、発覚しない、通報されない、指導されない「いじめ」が生じます。

あなたにもこの見方を持って頂き、日頃から子どもさんに教えてもらいたい事があります。

「暴力で自己満足を得る事や解決をはかる事はいけない」あるいは「不安な時は救いを求めなさい」

「反社会的な行為を見たら通報しなさい」この三つの事柄です。

そしてあなたにはあらかじめ、「いじめ」対応も学校の教育「教材」であると了解し、九九や書き取りと同様、その時が来たなら、学校の指導に任せる心の準備をしておいてもらいたいのです。

そして、もしも「いじめ」が分かっても、担任に相談し、あなたが直接「いじめ」解消に介入しないで欲しいのです。

きっとその方が、学校の指導も子どもたちだけに向けられ、スムーズに進むと思うのです。

